



国臨協関信

関信支部ニュース第237号 令和7年4月



支部HPアドレス
https://www.kanshinshibu.org/index.html



支部NEWSアドレス
https://www.kanshinshibu.org/member/news.html

●事務局／〒162-8655東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院
中央検査部門内

●発行者／吉田茂久
●編集委員／中村良幸 齋藤ひとみ 渡辺順也 荒木涼
●印刷所／一喜堂印刷株式会社 ☎0268-35-2624

第79回 The 79th Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services

国立病院総合医学会 in 金沢

輪・環、そして和

——未来への「わ」の創成——

会期
2025年11月7日(金)～8日(土)

会場
石川県立音楽堂／ホテル日航金沢／金沢市アートホール
ANAクラウンプラザホテル金沢／もてなしドーム 地下広場

<https://www.congre.co.jp/79nms/>
【事務局】独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター内 〒925-8650 石川県金沢市下石町1番1号
【運営事務局】株式会社コンフレイン 〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-51 Nakanochoima Qross 東洋館 5&D センター
E-mail: 79nms@congre.co.jp

会長 阪上 学／独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター 院長

副会長 伊勢 拓之／独立行政法人国立病院機構 石川病院 院長

安井 正英／独立行政法人国立病院機構 七尾病院 院長

絵画：古澤洋子

令和7年度 会員の親睦・交流事業について

国臨協関信支部としましては、会員の皆様方が相互に交流し、親睦の輪を広げる場として下記の事業を予定しております。詳細が決まり次第、ご案内させていただきます。

是非、多数の会員の皆様方のご参加をお待ちしております。

- (1) 令和7年度ビアパーティー（7月から9月の期間中に都内会場にて開催予定）
- (2) 令和7年度合同交流会（令和8年度以降に開催する予定で検討中）

定年を迎えて



NHO 高崎総合医療センター 瀬下 明子

この度、定年を迎えてと題してご挨拶をさせていただきます。定年までであったという間だったという感覚ではありますが、振り返るとそれなりに様々な経験をして歩んで積み重ねた今であると思っています。

現在の検査室は私が働き始めた頃には想像できない程に検査項目は増えて、検査機器は進化し、業務量も増大しています。私もこれまで新しい技術と共に自分も対応できるように自己研鑽に励み、また多くの方々と出会い刺激を受けて少しずつ自身のスキルを積み重ねてきました。決して器用な方ではなく、向いてないと思悩む事も多々ありましたが、現状維持は後退と同じだと考えていたので1ミリでも前へとやれる事は一生懸命やろうと思って今日になったという感じです。このように書くにつらい毎日の様ですが、新しいものを面白がってロールプレイングゲームの如く攻略しているうちに過ぎたようにも思います。

検査技師の業務分野は病院の中でもとても幅広く、これからも増えそうですし、検査技師は知識も豊富な職種だと思います。私も様々な分野を経験させていただき、検査技師をやっていると良かったと思っています。中でも細胞検査士の資格は自分の支えでした。

さて、今の時代は本当に便利になったと思います。学ぶ環境には恵まれて、様々なツールも登場してきました。選択肢も増え、便利な分忙しい時代になったなという感がありますが…。自分を見失わない様に今ここからどう生きていくのか、どんな世界にしていきたいかを考えていく事は必要かと思っています。その中でも他人を思いやる優しい気持ちも持ち合わせていたいですね。これからも皆様とどんな景色が見られるのか楽しみにしています。

最後に皆様の益々のご活躍と、健康で笑顔あふれる日々となります様祈念しております。



NHO 下志津病院 後藤 智彦

私の臨床検査技師としての軌跡と今後の展望

私は、約27年にわたり臨床検査技師として多くの医療機関で勤務し、さまざまな経験を積んできました。総武臨床検査センターや東京都予防医学協会、豊島区医師会ケンサセンター、順天堂大学医学部附属順天堂医院を経て、国立東京第二病院、国立がんセンター中央病院、国立療養所下志津病院、埼玉病院、茨城東病院、災害医療センター、国立病院機構下志津病院など、幅広い職場での経験が私の成長を支えてくれました。

特に、茨城東病院では職員のワクチン管理に関する学会発表を行い、その結果として母子手

帳アプリの開発に成功しました。

埼玉病院では、血液培養の輸送ケースの運用事例を学会で発表し、複数の表彰を受けることができました。この成果は、最終的に商品化され、販売に至ったことも大きな喜びでした。この取り組みは、職場の皆さんの協力があってこそ実現したものであり、チームワークの重要性を再認識する機会となりました。

また、ICT 活動の一環として、チャットを利用した感染対策のモデルケースを学会発表した際には、大手システム会社からも注目され、アイデアとして取り組まれることとなりました。最終的に、下志津病院に技師長として戻って、院内の温かい職場づくりのプロジェクトチームに参加し活動することができました。

これらの経験を通じて、私は技術者としてのスキルだけでなく、チームでの協力やコミュニケーションの重要性を深く理解しました。今後は、これまでの経験を活かし、次のステップへと進む準備をしています。臨床検査の分野は常に進化しており、私もその変化に柔軟に対応し、貢献できるよう努めていきます。

退職に際し、これまでの経験を振り返り、支えてくださった皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。今後も臨床検査の発展に寄与できるよう、引き続き学びを深めていく所存です。



NHO 災害医療センター 藤澤 京亮

旧国立大蔵病院に賃金職員として採用され 38 年間、3 月末に無事に定年退職を迎えることが出来ました。これもひとえに技師長、副技師長をはじめ指導に携わって頂いた先輩方、苦勞を共にした技師方々の支えがあったからと思います。本当に有難う御座いました。

振り返って見ますと、現施設を含め 5 施設を経験しましたが私自身印象に残っているのは、主任昇任で転勤となった中信松本病院での 8 年間でした。なぜなら、この転勤が我が家の運命を左右することとなったからです。当時、我が家では娘の教育上の理由で福岡への引っ越しを検討しており、私が単身赴任となった現状を考えれば家族が千葉在住でも福岡在住でも変わらないとなり、福岡県への引っ越しを決断しました。この為、中信松本病院の 8 年間は月に 2 回、松本と福岡を 7 時間かけての大移動となりました。しかし、このような環境の中でも検査科のスタッフの協力もあり、何とか乗り切る事が出来ました。さらに、現在の楽しみであるランニングを始めたことも自分自身に大きな影響を受けることとなりました。

最後に、突然の異動や単身赴任等がありましたが自分にはかけがえのない経験となりました。若い技師の方々も転勤や配置替えなど大変なことがあります、新しい知識や経験を得ることができ、人との縁も生まれる機会でもあるので頑張ってくださいと思います。私もまだまだ体は動きそうなので技師として業務はもちろん、フルマラソン 4 時間切り目指しマラソンの練習に励んでいこうと思っています。最後になりますが、皆様のご多幸とご更なる活躍を祈念して、挨拶とさせていただきます。



NHO 久里浜医療センター 屋代 達

「あなた臨床検査技師に向いていないから辞めたほうがいい、お辞めなさい」と当時の主任から言われて始まった検査技師人生も時がたつのは早いもので定年を迎える年になりました。これといった実績を残しているわけではありませんが、折角ですので少し振り返ってみたいと思います。

平成が数年後に訪れる昭和 62 年に賃金職員として採用され今日に至ります。20 代の頃はどの分野で進んでいけば良いのか分からず地に足のついた状態ではありませんでした。自分の中で地に足がついてきたのかなと思えるきっかけとなったのが 30 代に入る前にローテーションで輸血管理室に移動したこと、また後に輸血の認定制度が始まったことになると思います。

認定試験受験で覚えているのは受験単位を取得するのに 2 週間で福岡・札幌を日帰りで行ったこと、また今はありませんが当時は行われていた日臨技全国研修会に参加しそのことがきっかけで毎年参加するようになり全国に知り合いが出来たことです（今も交流があり有り難いことです）。

さらに大学附属病院での指定施設研修では研修修了後の感想発表時に「もっと勉強がしたいです」と輸血部教授の先生に言ったところ「やる気があるなら来なさい」と言ってもらえて 2 ヶ月の間毎週土曜日に勉強しに行くことができ、そのかいもあってか試験は奇跡的に合格することができました。

これまで輸血に携わることによってほんの少しでも人の役に立つことが出来たのであればこれに勝つことはありません。そして賃金職員で採用された頃大変お世話になった松林さん、行正さんを始めこれまで関わって頂いた方々にこの紙面をお借りして感謝申し上げます。

最後に、国臨協関信支部の発展と皆様のご多幸とご活躍を心より祈念して、挨拶とさせていただきます。

そのほかに退職される会員の方々

氏 名	施 設 名 称	役 職 名
蓮 尾 茂 幸	NHO 埼玉病院	臨床検査技師長
山 崎 正 明	NHO 千葉医療センター	臨床検査技師長
後 藤 信 之	国立精神・神経医療研究センター病院	臨床検査技師長
平 原 博 美	NHO 東長野病院	臨床検査技師長
荻 部 正 宏	国立がん研究センター東病院	副臨床検査部長
古 田 学	国立療養所栗生楽泉園	主任臨床検査技師
岩 田 久仁子	NHO 東京病院	臨床検査技師
新 谷 幸 子	国立国際医療研究センター病院	臨床検査技師



研修会

レポート

集合型

令和6年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)に参加して

NHO 久里浜医療センター
足立 裕美



令和7年1月16日(木)と17日(金)に令和6年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)が国立病院機構本部研修センターにて開催され、輸血業務の経験が浅く他施設ではどのような業務が行われているかを知るため参加しました。

1日目は午前中に講師の先生方が輸血関連学会で発表された演題についてお話があり、続いてJCR ファーマメディカルアフエアーズユニットの吉田理先生の「テムセルをはじめとした再生医療等製品について」、午後は各施設の輸血検査室の取り組みと講義中心の内容でした。自施設は最小限の輸血業務しか実施されておらず経験したことがない内容ばかりでしたが、講師の先生方がわかりやすく説明していただき実際の輸血業務内容を理解することができました。その後グループに分かれ、輸血業務こんなときどうする?というテーマでオモテウラ不一致の対応や血液製剤の選択、緊急輸血の対応について意見交換を行いました。

2日目は輸血検査の基礎的操作方法に関するビデオ実習や凝集目合わせ・血液型検査、その後症例検討と主に実習中心に行いました。凝集目合わせ・血液型検査では講師である認定輸血検査技師の方々から細かな手技や判定の重要なポイントまでご教示していただきました。症例検討では希少な重型や部分凝集を実際に見ることができ、貴重な経験となりました。

今回の研修では輸血検査の基礎から学ぶことができ、大変充実した2日間になりました。また他施設の技師や認定輸血検査技師の方々と話し合う機会が多くでき、他施設での輸血業務内容や体験談など様々なお話を聞くこともできました。今後はこの経験を活かして実践していきたいと思いました。

最後になりますが、ご多忙の中ご指導いただきました講師の先生方、研修を企画・開催してくださいました関東信越グループの皆様に厚くお礼申し上げます。

令和6年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)に参加して

NHO 茨城東病院
本木 裕也



令和7年1月16日、17日の2日間にわたり、国立病院機構本部において令和6年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)が開催されました。

本研修は「臨床検査技師に対して、輸血検査の基礎及び専門知識を習得させ、個々の役割・責務を正しく認識し、各施設における輸血療法に関わる医療安全の推進を図るとともに、臨床に寄与できる輸血検査技師の育成」を目的としています。

1日目は、輸血関連の学会発表、急性GVHD治療に用いられる再生医療等製品、各施設の輸血検査室の取り組みについてのご講演と「輸血業務こんなときどうする?」として、イレギュラーな場面に遭遇した時の対応について教えていただきました。

2日目は、「輸血検査の実際」としてビデオ実習を行い、使用する機器・器具の管理や適切なサンプル・試薬の確認等の検査前プロセスの重要性と凝集反応を見る際の注意点について教えていただきました。オモテ・ウラ不一致例についての症例検討も行い、考えられる原因や追加検査、臨床への報告についてグループ討議を行いました。

私自身業務のなかで輸血検査に関わる機会がほとんどないため、基礎的な知識・技術が乏しく不安でしたが、講師の先生方から丁寧に指導いただき、大変有意義な研修となりました。本研修を通じて、私たち臨床検査技師が日々行っている輸血検査の重要性を改めて感じました。今回学ばせていただいたことを、日々の業務に活かしていきたいです。

最後になりますが、お忙しい中ご講演・ご指導していただきました講師の先生方、本研修を企画・開催していただきました関東信越グループの皆様に心より感謝申し上げます。

研修会

オンライン

レポート

令和6年度第2回国臨協関信支部主催研修会に参加して

NHO 霞ヶ浦医療センター

新井 真弓



令和6年12月9日(月)から令和7年1月10日(金)にオンデマンド配信にて開催された第2回国臨協関信支部主催研修会に参加させていただきました。

第1部の「試薬の安全な取り扱い ～リスクアセスメントの重要性～」では労働安全衛生関係法令改正のポイントや、よく理解できていなかったリスクアセスメントの実施内容・実施ステップなども順を追って説明していただき、とても勉強になりました。労働安全衛生関係法令の改正内容が化学物質管理者の職務と密接に関係しており、化学物質責任者に求められていることへの理解を一層深めることができました。

第2部では「がんゲノム医療の概要と検査における留意点」を拝聴しました。がんゲノム検査の目的から分類、検査後の治療到達状況まで幅広い内容を説明していただき、より深く理解することができました。また、がんゲノム検査に用いる FFPE 標本は検体採取後の取り扱い方により品質差が生じやすいため、病理プレアナリシスを理解し質の高い FFPE 標本を作製することが検査において重要であると改めて認識することができました。

今回の研修会は病理検査に携わる臨床検査技師としてとても有意義な内容で、基礎知識の向上・再確認する良い機会となりました。現在、化学物質責任者を任されているため、第1部の講演は特に興味深く、本研修で学んだことを実践できるように努力していきたいと思えます。

最後になりますが、今回の研修を企画開催していただいた関東信越グループの皆様と講師の先生方に心より感謝申し上げます。

令和6年度第2回国臨協関信支部主催研修会に参加して

NHO 千葉医療センター千葉東病院

佐久間 智大



令和6年12月9日(月)から令和7年1月10日(金)にオンデマンド配信にて令和6年度第2回国臨協関信支部主催研修会が開催され、「知っておきたい！病理検査の最新事情～新しい化学物質規制と最新ゲノム情報～」をテーマとした講義に参加させていただきました。

第1部では労働安全衛生に関する法令の改正にともない重要性が増したリスクアセスメントについて解説していただきました。リスクアセスメントという言葉にあまり馴染みがありませんでしたが、その概要から具体的な実施ステップといった詳細な部分までわかりやすく教えていただきました。毒物・劇物を含む化学物質を管理する病理検査部門に所属している技師として、適切なリスクアセスメントに取り組むことが安全な労働環境の整備に欠かせないものと感じました。

第2部では分子標的薬数の増加や遺伝子解析技術の進歩により身近な分野になりつつあるがんゲノム医療とゲノム診療用病理検体の取り扱いについて講義していただきました。前施設で病理治験業務に携わっていた経験から、過去の記憶を呼び起こしながら拝聴しました。当時は漠然と治験書類に記載する冷虚血時間や固定時間などの確認作業に努めていましたが、今回の講義を通して、病理プレアナリシスが及ぼすがんゲノム検査への影響とその大切さを学ばせていただきました。

今回の研修会を通して知識の更新、また現在携わっていない分野においても、病理検査技師として知っておくべき知識を数多く得ることができました。今後もこのような最新の情報に遅れをとることなく研鑽を積んでいきたいと思えます。

最後になりますが、本研修会を企画・開催していただいた関東信越グループの皆様と講師の先生方に心より御礼を申し上げます。

令和6年度臨床検査の精度確保および品質マネジメントシステム研修に参加して

NHO 甲府病院
宮澤 智孝



国立病院機構本部主催の令和6年度「臨床検査の精度確保および品質マネジメントシステム研修」に参加させていただきました。本研修は本部eラーニングシステムにて、ポイントが掴みやすくまとめていただいた6講義を受講したのち、Webでのグループディスカッションに2025年1月16日または1月23日に参加する形式で開催され、私は23日開催のグループディスカッションに参加いたしました。

グループディスカッション研修は全国の施設から集まった受講生が6グループに分かれ、グループ毎に指示された課題をディスカッションした後に発表し、その後に模範解答の説明をいただく流れで研修が進められました。

課題は写真課題と事例課題があり、写真課題では検査室の内部監査写真から問題点・理由・改善方法のディスカッションを行いました。ディスカッションや他グループの発表では、写っている状況から見える問題点、写っていないが状況から推測する問題点と、多方向からの考察により様々な意見が出てきたことは面白く、着眼点について大変勉強になりました。事例課題では事例が起きた原因・直ちに打つべき対応・再発を防ぐ根本的解決策についてディスカッションを進め、労力、手間等からの解決策の検討、システム等の導入が理想であるが資金問題等、ベストな答えを導くための考察はとても楽しく勉強させていただきました。

またディスカッションの中、ファシリテーターの先生方には、話の方向性が脱線しそうな際のご助言や言い回しについてのご指摘を的確にいただき、場を和ませながら補佐される姿には研修とは別に有識者としてのスマートな立ち振る舞いを勉強させていただきました。

最後になりますが、ご多用の中、今回の研修を企画、開催していただいた国立病院機構本部をはじめとした関係者の皆様方、講義をしてくださいました先生方、ファシリテーターの先生方に心より感謝申し上げます。

令和6年度臨床検査の精度確保および品質マネジメントシステム研修に参加して

NHO 栃木医療センター
高橋 理紗



令和7年1月に「令和6年度臨床検査の精度確保および品質マネジメントシステム研修」がWeb形式で開催され、全国のNHOとNCに従事している臨床検査技師60名が16日と23日に分かれて参加しました。

事前にeラーニングにて、PDCAサイクル、内部監査、是正、記録、ISO15189に関する講義を受講し、その後写真課題6題、事例課題6題に取り組み研修会に参加しました。写真課題は内部監査を学ぶ目的で実施され、提示された写真から問題点、理由、改善方法を考えました。事例課題は是正を学ぶ目的で実施され、提示されたインシデント事例からそれが起きた原因、修正処置、是正処置を考えました。研修会はグループディスカッションがメインであり、グループ内で意見をまとめ1題につき1グループが発表しその後講義をしていただく形式となっており、午前は内部監査を、午後は是正を学びました。1グループは5名で構成され、各グループにファシリテーターが2名ついてくださりディスカッションに行き詰まるとヒントやアドバイスをくださいました。

本研修に参加して、全国の様々な施設規模や病院特性の方々の意見を聞き、多くの気づきを得ました。全施設でISO15189を取得するのは現実的ではありませんが、ISO15189の要求事項を理解し行動することで業務改善へのハードルを下げ、正確で信用できる検査結果を臨床側へ提供することにつながると考えます。よって、国立病院機構のネットワークと本研修会で学んだことを今後の業務に活かし、臨床側から必要とされる検査室の維持に務めていきたいと思います。

最後になりますが、ご多忙の中ご講義いただきました講師の方々、ならびに企画、開催していただきました関東信越グループの皆様方に心より感謝申し上げます。



令和6年度関信支部主催症例検討会 解説

令和7年2月15日(土)に、NHO 横浜医療センターにて国臨協関信支部症例検討会がLIVE配信で開催されました。今回は消化器領域において症例提示をさせていただきました。及ばずながら解説をさせていただきます。

NHO 横浜医療センター
播井 美由紀



検査所見

症例は当院受診より以前から肝酵素(AST・ALT)やLDの上昇がみられ、肝細胞障害が示唆されます。肝合成機能障害の指標となるアルブミンや総コレステロール、凝固因子が低値を示しており、10病日には凝固系は破綻しています。腎機能はBUNやCreの上昇が目立ち急性腎不全の状態が示唆され、尿定性では蛋白や潜血が陰性で、腎実質の障害が目立たないことから肝障害による腎前性急性腎不全が疑われます。ヒアルロン酸やIVコラーゲンといった肝線維化マーカーから高度の線維化がみられ、肝硬変を来していると考えられます。またビリルビンおよびアンモニアの経時的な上昇が目立ち、肝不全が考えられました。

日本肝臓学会では「肝疾患の早期発見・早期治療のきっかけ」としてALT>30をひとつの目安とされており、「ウイルス性肝炎」、「肝線維化に伴う脂肪肝」、「アルコール性肝障害」、「その他の原因による肝障害」を各検査から疑うことが記載されています。(奈良宣言2023)

免疫血清学的にIgG高値であり、AFPやPIVKA-IIなどの腫瘍マーカーや肝炎ウイルス陰性により他の肝障害の要因が否定され、肝硬変の原因は自己免疫性肝炎(以下AIH)が示唆されました。また急性増悪(市販薬の使用がトリガーとなった可能性が高い)により、肝硬変を来したことに関連して上記の病態を引き起こしたと考えられます。

追加検査として自己抗体や画像検査、病理検査が挙げられます。今回の症例は抗核抗体陽性、抗平滑筋抗体陰性であり、腹部超音波検査やMR胆管膵管撮影では肝萎縮や腹水貯留を認めました。ステロイドによる治療が行われましたが、全身状態の悪化により16病日に永眠され、病理解剖が行われました。

病理組織学的所見

全身の黄染が目立ち黄色透明、漿液性の胸水・腹水・心嚢水を認めました。肝臓は萎縮が高度で重量は385gと正常の約1/3程度であり、表面は顆粒状を呈していました。組織学的には架橋性の線維の増生により小葉構造が改竄されており、肝硬変の像でした。門脈域や線維化部にリンパ球や少数の形質細胞を含む炎症細胞浸潤を認め、interface hepatitisの像を呈していました。このような像から肝硬変の原因として、ウイルス性慢性肝炎やAIHが鑑別に挙げられますが、血液学的検査所見(抗核抗体(ANA)40倍、IgG高値、肝炎ウイルス陰性)からAIHと考えられます。また小葉内に帯状の壊死や巣状壊死があり、胆汁うっ滞像もみられ、急性肝炎の像を呈していました。急性肝炎の原因は薬剤性の可能性もありますが、AIHの急性増悪と考えられます。肝酵素の異常や凝固異常については、AIHの進行による肝硬変とその急性増悪による急性肝不全(Acute on chronic liver failure)として説明可能と考えます。腎臓には良性腎硬化症以外に実質の障害がほとんどなく、腎障害は肝不全に伴う肝腎症候群と考えられます。その他、甲状腺機能低下症については甲状腺組織の著明な萎縮と線維化から、橋本病(繊維萎縮型)と考えられます。

今回の症例は自己免疫性肝炎の進行により生じた肝硬変により種々の病態を来し、短い経過で永眠されました。肝障害は急速な悪化を示すことがあるため、早期発見、早期治療により肝硬変への進行を防ぐことが大切であると考えます。

今回ご協力いただきましたパネリストの方々、貴重な経験をさせていただいた関信支部役員の方々、そしてお忙しい中ご参加くださいました会員の皆様に感謝申し上げます。

令和6年度関信支部主催症例検討会 参加者



NHO 相模原病院 山口 洋輝

令和7年2月15日(土)、令和6年度関信支部主催症例検討会に初めてパネリストとして参加させて頂きました。今回は、Zoom ウェビナーによるライブ配信にて開催され、消化器領域の症例をテーマとした1部構成でありました。講師として横浜医療センターの千葉佐和子先生、播井美由紀主任技師、森真衣子技師3名の先生と、3施設からパネリスト3名によるディスカッション形式による症例検討でした。ウェビナーによるライブ配信ではありましたが、皆様の前での発言はとても緊張しました。

症例検討では既往歴や病態、検査データから得られる情報により疾患を推測していく重要性を改めて学べる事が出来ました。事前に自施設で症例検討を行い、疾患に対しての根本的な原因について意見が割れ悩まされました。また、追加検査ではあまり関わらない部門の意見や様々な検査からのアプローチがあることが分かり、とても勉強になりました。

当日は、他施設の見解を聞くことで、自身では考えつかなかった考察が得られ非常に勉強となり有意義な時間でした。また、千葉先生並びに森先生による症例の解説では、患者の病態変化を踏まえ、今ある情報から主訴の原因となる障害部位の探索、鑑別のために必要となる追加検査や解剖所見のお話をして頂き、臨床医の先生がどのような考えのもと診断を行っているかが分かり、自分の知識不足を痛感し、日ごろから検査技師として必要な知識やスキルの向上を意識づけられる研修会になりました。

最後になりましたが、ご多忙の中ご講演頂きました横浜医療センターの千葉佐和子先生、播井美由紀主任技師、森真衣子技師をはじめこの症例検討会を企画・運用いただきました国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

アフターコロナ通信



(1)

post-corona

埼玉地区会講習会・総会に参加して

NHO 埼玉病院 村松 空



令和6年9月14日(土)に埼玉病院にて第11回埼玉地区会定期総会および研修会が集合型で開催されました。

研修会では、熊谷臨床検査専門職より「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題して国立病院機構の概要から主任技師任用試験についてなど多くの内容をご講演いただきました。特に私が興味を抱いたのは「タスク・シフト/シェア」についてです。現在、法改正により臨床検査技師の業務が拡大し、厚生労働省主催のタスク・シフト/シェア講習の受講が急務となっています。今回、熊谷臨床検査専門職のご講演では前述の指定講習の内容に加え、今後入職する技師は既にその知識・技術を習得した上で就職すること、このため未受講者は受講を急ぐようにとのことでした。このお話で改めて医療の世界は変化が激しく、知識の習得を続けなければ、最新の医療技術にもそれを学んだ新人技師にも置いて行かれてしまう職業であることを痛感しました。そして、このタスク・シフト/シェア講習の必要性和学びを継続することの重要性を再確認する良い機会となりました。

定期総会では、埼玉地区会の令和6年度の活動内容について報告されました。その後、議案審議、令和7年度新役員の選出が行われ、会員の承認をもって無事に終了しました。

コロナ禍に入職した私にとって、初めての集合型による対面形式の地区総会であり、会員の皆様に直接挨拶することができて大変うれしく思いました。今後も地区会の活動を通して会員の皆様との親睦を深めていきたいと思っています。

最後になりますが、お忙しい中ご講演いただいた熊谷臨床検査専門職、この会を企画してくださいました埼玉地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。

アフターコロナ通信



(2)

post-corona

群馬地区会定期総会、研修会に参加して

NHO 渋川医療センター 西之原 由季

令和6年11月16日(土)に高崎総合医療センター2階大会議室において、令和5年度国臨協関信支部群馬地区会定期総会が関東信越グループ 熊谷臨床検査専門職と国臨協関信支部 荒木理事ご臨席のもと、集合型で開催されました。

研修会では日本ベクトン・ディッキンソン株式会社の小林郁夫先生より「臨床検査技師と血液培養」と題してご講演をいただき、血液培養の基本的な知識や2セット採取の重要性などを



学ぶことができました。私は昨年の12月から細菌検査室のバックアップ要員として教育・訓練を開始しているので、今回の講演で得られた知見を活かして今後の業務に取り組みたいと思います。

また、熊谷臨床検査専門職から「臨床検査専門職からの伝達事項」と題して国立病院機構の概要、各種認定試験の取得状況や主任選考試験などについてご講演頂きました。新卒の私にとって、臨床検査技師としてのキャリアパスを考える貴重な機会となり、日々の検査業務をこなすだけではなく研修や認定試験に対して前向きに取り組み、自己研鑽に努めていきたいと改めて実感しました。

定期総会は椎名会長の挨拶に始まり、令和5年度の事業経過報告、議案審議、新役員の選出が行われ、会員の承認をもって滞りなく閉会しました。

定期総会終了後は、場所を移して懇親会が行われ、にぎやかな雰囲気の中で参加された群馬地区会の皆様と親睦を深めることができました。地区会や懇親会は初めての参加でしたが、多くの学びや出会いがあり、会員の皆様とのつながりを持つことができ、とても良い経験になりました。

最後になりますが、お忙しい中ご講演頂いた熊谷臨床検査専門職、国臨協関信支部荒木理事、そして今回の群馬地区会定期総会開催に当たりご尽力くださいました群馬地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。



新潟地区会定期総会、研修会に参加して

NHO 新潟病院 水越 寛

令和6年11月23日(土)にNHO さいがた医療センター2階講堂において、国臨協関信支部新潟地区会定期総会および研修会が前年同様に集合式で開催されました。

今回の新潟地区会総会は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行後、徐々に集合式に対する緩和もされ無事開催にいたりしました。

来賓としては関東信越グループより熊谷臨床検査専門職、関信支部より吉田支部長のご臨席を賜りました。研修会ではアボットジャパン合同会社の梶優展先生より「垣根を取っ払い臨床検査室の外で活躍する」と題してご講演をいただきました。普段のルーチン業務や検査技師の目線とは異なる新しい知識や考え方など学び、今回の内容を日々の業務に取り入れ活かしていきたいと思いました。

続いて、熊谷臨床検査専門職から「伝達事項ならびに会員の皆様にむけて」と題して、国立病院機構の概要や各種認定資格試験の取得状況、主任技師任用試験など多岐にわたる内容をご講演いただきました。スキルアップのための様々な機会が用意されているお話を拝聴し、各種研修会などに積極的に出席し、さらなる自己研鑽に努めていきたいと考えました。

定期総会では梅戸会長の挨拶に始まり、令和6年度新潟地区会活動の内容が報告されました。新型コロナウイルスが蔓延してからは私自身初めての集合式の地区会でした。今後も地区会の活動を通して会員の皆様との親睦を深めていきたいと思いました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演いただいた熊谷専門職、梶先生、吉田支部長、そして本会の開催に携わっていただきました新潟地区会役員の皆様に感謝申し上げます。



会員のひろば

私の失敗談

NHO 小諸高原病院
三井 恵都子



技師長より唐突に「三井さんの趣味や最近のトピックって何？」と聞かれ、私の中のホット(?)な「どんど焼き」の話をしたところ「それいいね」となり、「実は支部ニュースの会員のひろばへの執筆依頼があるんだけど三井さん書いてみる?」「じゃあ、書いてみますか!」ということで今回の執筆をさせて頂くことになった次第です。

どんど焼きとは、松の内まで飾っていた松飾りやしめ縄、お正月にしたためた書き初め、昨年に授与したお守りなどを、神社や地域の広場・畑などに持ち寄って燃やす(=お焚き上げる)、地域の行事のことです。私の住んでいる長野県上田市ではどんど焼きという名で親しまれていますが、地域によって様々な呼び方があるようです。また、枝に付けた団子(以下繭玉)

などをどんど焼きの火で焼いて食べると一年の無病息災が叶うとされています。

去年はどんど焼きの前日に繭玉を作っておいたところ、繭玉が固くて子供には不評でした。去年の教訓を生かし、繭玉は当日つくることにして、なんなら繭玉に砂糖を混

ぜて作れば保水効果で固くなりにくいし、甘くて食べやすいよね、「ナイスアイディア」と当日の朝せっせと作りました。そして繭玉をつけた枝を子供に持たせ、意気揚々と出かけました。

どんど焼きが始まり、火が下火になるまで待っていると、丁度、枝から垂れ下がった繭玉が息子の顔に触れ、息子が繭玉をペロリと舐めました。すると少し顔をしかめて「しょっぱい!」というのです。「砂糖入れたのにしょっ

ぱいわけじゃない〜」と息子と話しながら、下火になった火に枝をあて繭玉を焼き、いざ実食。繭玉は軟らかそうだしきつと去年より上手く出来たはず。と思って食べてみると息子が言うように「しょっぱい!」むしろやや塩辛い。頭の中は「?」。もしかしたら、さっきの繭玉はしょっぱ

かったけど、こっちは甘いかもと2つ目を食べましたがやっぱりしょっぱい。そりゃそうです。同じ容器からすくって入れました。もしかしたらなんて淡い期待をなぜ抱いた私。しかも甘ければ甘いほど子供も食べてくれるだろうと繭玉一個あたりに入れた量は小さじ1杯。小さじ1杯は5cc。日本人の塩分摂取量目安は6.5g~7.5g。ccとgは同じで無いにせよ繭玉2個で大体一日分の塩分摂取量を超過。長野県民の9割は塩分を取りすぎているそうですが、もれなくこの日は繭玉2個で私も真の長野県民に加わりました。頑張って作った繭玉でしたが、子供達はお友達のお母さんが持ってきてくれたマシュマロを焼いて食べるのに夢中で見向きもせず。私もさすがにしょっぱすぎる繭玉をそれ以上食べる気になれず(去年の繭玉はカチカチでしたが食べました)、塩分たっぷり繭玉はお焚き上げと供に天に昇っていきました。

皆さんもこんな失敗談ありますでしょうか。そういえば今年度を振り返るとアジフライの骨が喉にひっかかり数日経っても違和感と痛みがとれず耳鼻科に受診したり、職場の棚(小諸高原病院の戸棚は古くて開閉しづらい)に指を挟んで一人でまさかのVVRになったり、年末は自宅階段からすっ転び人生初の骨折を経験するなど突っ込みどころ満載の年でした。でも、入院するほどではなかったし、仕事も続けられているし、家族は大きな病気もなく元気だしとポジティブに捉え、これくらいで済んでよかったと思うようにしています(じゃないとやってられん)。来年度は素敵なことがあるといいな。





解答・解説は関信支部 HP に掲載いたします。

～ 免 疫 ～

このような結果が得られたとき皆さんはどのような対応をとりますか？

Question 1 HBsAg 値が 0.06 IU/mL で陽性という結果が得られた。(カットオフ値 0.05)

- ① 特に何もせずに陽性として報告
- ② 再遠心してから再検査
- ③ カルテで患者情報を確認
- ④ 別法（イムノクロマト法）にて再検査を実施
- ⑤ 主治医へ HBc 抗体などの関連するほかの検査の依頼を行う



Question 2 50 歳代 女性 RPR (+)、TPAb (-) という結果が得られた。

- ① カルテで患者情報の確認
- ② RPR 偽陽性または TPAb 偽陰性を疑い測定機器にて反応曲線等の確認を行う
- ③ 別法（イムノクロマト法）にて再検査を実施
- ④ 特に何もせずに陽性として報告
- ⑤ 主治医へ関連するほかの検査の依頼を行う

※正解は1つとは限りません♪

第53回 国臨協関信支部学会
演題募集のお知らせ



関信支部HP

テーマ
次世代への継承 ～現在の検査と未来の検査を考える～

一般演題募集要項

- 発表形式 → PowerPointによる口演
- 演題登録期間 → 令和7年3月1日(土)～
5月31日(土)必着

多数の皆様のご登録お待ちしております！

令和6年度 国臨協関信支部 地区代表者会議

令和7年1月25日(土)国立がん研究センター中央病院で地区代表者会議が行われました。

当日の資料および議事録についてはHPをご参照ください。



関信支部HP

編集 後記

春の陽気がみられる中で新たな年度を迎えられ、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。新たな仲間・環境・挑戦など年度の始まりはたくさんの方が目白押しです。関信支部も昨年度の終わりからHPを委託化し、新たな挑戦としてより良いものを作っていこうと考えております。本誌も含め皆様と共に盛り上げていけるよう努めてまいりますので、ご意見・ご要望等ございましたら、HP上の「会員の皆様の声」への投稿もしくは支部役員へ連絡していただければと思います。どうぞご愛読の程よろしくお願い致します。(広報 荒木)